

人間形成の道

岡山県

福田道場

小学6年

吉村輝奏

全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会がなくなった。このことを知ったとき、体の力が抜けて何も考えられなくなった。ぼくはこの大会に岡山の代表となって出場することを目標にこれまで練習してきたのだ。道場の多くの先輩たちのように絶対に出ると思い剣道を続けてきた。

大会が無くなったと知った日は、父の部屋でぼーっと過ごした。毎日していた素振りも何もしなかった。次の日もしなかった。心に思うことは「コロナがなかったら……」「大人の剣道は試合があって、なんで子供のは中止になるんだろう」ということばかりだった。

コロナの影きょうで、ぼくのように目標がなくなったり、目標が無くなったことから剣道をやめてしまった人もいるだろう、

そんなことを考えながら、大会中止を知ってから三日目、母が「ランニングして、素振りをしようや」と声をかけてきた。これまでも母は仕事後でもランニングでつきあってくれて、素振りを受けてくれていた。思い出せば、低学年のときは面をつけて受けてくれたこともあった。いつもぼくのそばにいてくれた。

しかし、気持ちがなえてなかなか動き出せなかった。そうしていると母が「二日の休みは大きいよ。あんたの剣道は、もう終わってしまったんか。苦しいときほど、プラスの考えに早く切り替えないと、取り返しがつかなくなるよ」と言ってどこかに行ってしまった。

試合があった頃、勝ってうれしかったことが思い出された。試合のときのきん張感を思い出してみた。そうしていると、また試合したいなと思った。そしてイメージを広げていった。

来年ぼくは中学生だ。全中がある。その先は高校生、インターハイがある。大人になればもっと大きな大会がある。「出たいな」と思った。すでにライバルたちは次の目標を見つけ、それに向かっていかもしれないと思った。

そこから、母を呼び一緒にランニングを再開した。母は「なんでも続けるのが大事。人生は長いから、続けていると苦しいことがあるけど、これからの世の中はプラスの考えではないと、人間ダメになるよ」といった。

母が言ったことから、道場の先生の顔が浮かんだ。「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」このことは先生から機会あるたびに教わってきたはずだった。先生は毎回「君たちの人生や剣道の道は長いんですから」と話してくださっていたのに、ぼくは何も分かっていなかった。人として精神的内面の成長がないから、今回大会がなくなっただけで目標を見失いかけたのだ。あげくには、コロナのせいにして一度始めたことを投げ出そうとしていた。

これからは、もう迷わない。今回体験したことで、考え方が変わった。剣道は剣での強さ、試合での強さだけではいけないのだ。長い道を自分でどうやったら、うまく生きていけるのかをイメージしていかなければならないのだ。そしてイメージしたことを行動にうつさなければならないのだ。こうした考えを続けることで、自分の剣道や勝ち方ができあがってくるのだ。また、精神的にも強くなるのだ。

ニュースではコロナはこの先五年は続くとも言われている。試合が中止されると思う。けい古もなくなることもあるだろう。でもぼくは、コロナを言い訳にして、やる気のない人間や逃げ出す人間にはなりたくない。だからこれからも、剣道を続け、一振りに思いを込めてやっていく。そして、悔しい思いをいつの日か、あの時があってよかったと思えるようにしたい。